

事務事業評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	総合交流拠点施設関係事業					②事業番号	3419
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	平成 20 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	法令	○ 条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称 泉南市総合交流拠点施設の設置及び管理に関する条例
⑦実施手法	直営	全部委託	一部委託	補助・負担	○ その他		
⑧関連予算科目コード	款	6	項	1	目	2	細目 3
⑨担当部名	⑩担当課名			会計 一般会計			
市民生活環境部	産業観光課						

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
①施設	①市民	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
泉南市総合交流拠点(サザンびあ)では、指定管理者制度を活用し、市内特産品の販売、地場の食材を使った食事の提供、季節にあった各種イベントの実施を行っており、その活動に対して支援する。	①イベント回数	回数
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
泉南市民をはじめ、市外からもより多くの方に来場いただき、新鮮でリーズナブルな地場の農産物・魚介類といった地元特産品を広く周知するため、各種イベントや情報の発信を行っていく。	①集客数	人
	②収入	円
	③アンケート結果	%
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
新鮮な農産物の販売、地場の魚介類を使用した食事の提供を通して、農商工の連携を促進する。また、イベント等を開催することにより、人々のにぎわいを創造し、特産の展開や観光資源の整備、情報発信を行い、地域の商業の活性化を図る。 その他の体系上の位置付け (3-3-1-2):農商工連携の促進 (3-4-2-3):イベント等の開催 (3-4-3-2):特産品の展開	政策(章)	3産業の活力が増し、にぎわいと交流が生まれるまち
	施策大(節)	3買物がしやすく人びとの交流の場ともなる、にぎわいと商業のまちをめざします
	施策中	1商業・サービス業の振興
	施策小	1地域商業の活性化

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	
対象指標①	市民	人	62,549	61,984	61,457	—	—	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	イベント回数	回数	10	10	8	—	—	
活動指標②								平成30年台風21号 により、長期間に渡っ て地元農産物が激減 したため、集客や売 上げが減少した。H30 年度はアンケート未 実施。
活動指標③								
成果指標①	集客数	人	195,102	181,756	181,392	—	—	
成果指標②	収入	円	39,703,508	35,568,561	33,287,952	—	—	事業費などの推移にお ける特殊要因などの説 明
成果指標③	アンケート結果	%	92	—	89	—	—	
事業費	投入人員	人	0.16	0.50	0.15	0.20		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		施設維持管理の経費 は原則指定管理者に よって負担されるが、平 成30年度、令和元年度 の直接事業費は指定管 理者上限額を超えた空 調機器の修繕料。(令 和元年度は商工振興事 業費より支出)
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員×単価)	千円	1,285	4,054	1,157	1,542		
	直接事業費	千円	0	405	1,146	7		
	総事業費	千円	1,285	4,459	2,303	1,549		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	686	686	681	700		
	一般財源	千円	599	3,773	1,622	849		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	市内の産業振興及び地域活性化を目的に泉南市総合交流拠点施設を設置。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	開設より、順調に売り上げ、集客等増加傾向にあったが、平成24年以降、頭打ちの傾向がある。さらに公園開発に伴う環境の変化が集客や売り上げに影響を与えるものと考えられる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	地域資源の活用を目指し、自社オリジナルドレッシング等の商品開発を積極的に進めている。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	にぎわいづくりの拠点として、地場の野菜の販売、各種イベントの実施により、大いに貢献している。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	にぎわいづくりの拠点として、多くの市民をはじめ、市外からの来訪者も多く、市の活性化に貢献している。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	市民をはじめ、多くの来客があり、市民ニーズに適合する事業であると思われる。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	泉南市の観光拠点の一つであり、休止は観光産業の育成の面からも問題がある。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価 **A**

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	集客に関して頭打ちになっている部分もあるが、泉南市のにぎわいづくりに寄与し、成果が上がっていると思われる。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	環境の変化に合わせ、実施イベントの工夫、商品の充実、さらなるにぎわいづくりのための工夫が必要である。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	観光協会や様々な市民団体と連携し、さらなる集客を見込むことができる。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価 **A**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	—
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	—

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	泉南市のにぎわいづくりに大いに貢献している。りんくう公園との密接な連携を構築し、更に大きなにぎわいづくりに努める必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 (年まで) エ. 休止 (年から) オ. 廃止 (年から)	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
	b	
①改革、改善の具体案、実施年度など		実施イベントのさらなる工夫、オリジナル商品の開発に積極的に取り組むなどし、さらなる展開、にぎわいづくりを継続的に進めるよう促す。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		集客数や売上げに関して横ばい傾向が続くが、りんくう公園と一体となった魅力あるイベントの実施、商品の開発等に積極的に取り組むことで打開し、新たな客層を開拓する必要がある。同時に直売所としては、生産者の高齢化に加え、天災等の影響によっても地元農産物の安定供給が困難となる可能性がある。消費者への安定供給を継続するため、販売者のみならず、生産者の立場にも寄り添った仕組みが必要である。